

レオナルド・ダ・ヴィンチ

イタリア、ルネサンス期の巨匠。絵画のみならず彫刻、科学、建築、土木、機械、天文学など、ありとあらゆる学問に才能を発揮し、「万能の天才」と称された。イタリア・トスカーナ地方近郊のヴィンチ村に生まれる。14、5歳の頃、フィレンツェの画家ベロッキオの工房に入り、絵画や彫刻の修業をし、師ベロッキオの助手として制作していたが、この時すでに絵画の技法では師を超えていたといわれる。常に理想と完璧を追求した天才ゆえに、今日に残るレオナルドの絵画作品は未完成も多く、数少ない。絵画史上では遠近法や解剖学などを用いて精密な描写を飛躍させ、統一した画面構成や sfumato と呼ばれる輪郭線をぼかして描く技法などでルネサンス芸術を完成させ、後世の芸術家に多大な影響を与えた。代表作に「受胎告知」、祭壇画「岩窟の聖母」、壁画「最後の晩餐」、「モナ・リザ」などがある。